　HP：https://risk-humanerror.jimdo.com

『心理学教室』２８

Hand in hand

安全通信　別冊

濵口労働安全コンサルタント事務所

〒651-1432

兵庫県西宮市すみれ台３－３－８

H.P　090-1155-3429

 hamachyan58@outlook.jp

ヒューマンエラー　状況認識モデル

　　マッピングの失敗（心理的空間≠物理的空間）はどのようにして起こるのか、人間の情報処理モデルの内、知覚での失敗、認知での失敗、意思決定段階での失敗、運動制御での失敗と、その発生段階ごとに問題は隠されています。今回は、人はどのようにして状況を認識するかを、状況認識モデルから説明します。

　Endsley,M,Rは状況認識の内部を3段階の詳細なモデルを提案しています。

情報認識の過程を3段階に分割し、①現状から認識すべき対象を知覚する②作業の状況と照らし合わせる③近い将来の状況を予測するという3段階プロセスを提案した。時間軸である将来の予想が重要な要素となっている。人は知覚した情報を現状に合わせるとともに、将来（運転中ならば即刻の判断もあれば、行き先表示を確認し、今スピードでは数分後など判断する）の状態を予測し意思決定を行っています。

　　この状況認識では、現状を知覚確認し、将来予測を行いその予測をフィードバックし再度、現状知覚との照合を繰り返し検討すると言われています。ここで、環境から在られる情報が正しくなければ、いくら優秀な人間でも正しい判断が出来ません。

　　状況認識モデルからは、ヒューマンエラーは環境状況での間違い、知覚段階、現状とのマッピング、将来予測、意思決定、行動の各段階で起こり得るということになります。どうでしょうか、一つヒューマンエラーと言っても多くの原因が考えられます。人間の情報処理システムがどのようになっているかを知ることで、その解決策は多岐にわたります。次回は、ヒューマンエラーの分類についてお話しします。